

渡嘉敷来夢さん

バスケットボール女子日本代表



スポーツも勉強も、
楽しみ、好きになることが大切。

春日部に住んだことで スポーツの楽しさを知った

3大会ぶり4回目の五輪出場を決めたバスケットボール女子日本代表。そのけん引役ともいえるのが渡嘉敷来夢選手だ。「100年に一人の逸材」といわれている。ふるさと春日部を凱旋訪問した際には次のように決意を語った。

「リオデジャネイロ五輪では、メダルを獲得できるように頑張りたいです！」

渡嘉敷選手は小学2年生のときから春日部市に住んでいる。

「活発で負けず嫌い。やんちゃ過ぎて、授業中に『うるさいぞ』って先生に怒られていました(笑)」

空手に野球、2歳年上の兄がやることは何でもまねた。運動が大好きで運動神経は抜群。小学6年生で出場した陸上大会では走り高跳びで日本一に。

豊春中学校に入学すると、球技がやりたくてバスケットボール部に入学した。

「男子部の顧問だった黒澤智先生がすごく熱心に教えてくれました」

引き込まれるようにバスケットの面白さを実感するようになった、と渡嘉敷選手。しかし5名の女子部員のうち2人が退部。試合ができなくなった。

渡嘉敷選手は、バスケットを続けるため、友人がいた東中学校への転校を決断。全国大会ベスト8入りを果たす。そこでの渡嘉敷選手のプレーが、バスケット名門校の目に留まったのを機に、世界で活躍する選手へと階段を駆け上がった。



母校の東中を訪れ、ミニゲームや撮影会などで生徒たちと触れ合った。子どもたちは間近に見る渡嘉敷選手に目を輝かせた。



渡嘉敷来夢さん

豊春中でバスケットに出会い、東中で全国大会ベスト8に。桜花学園高校時代、北京五輪の日本代表候補に選出。2010年、JX-ENEOSサンフラワーズに入学。2011年から日本代表。2015年、アメリカプロリーグWNBAのシアトル・ストームでも活躍する。

「スポーツの楽しさを知ることができたのは、春日部市に住み、小学生時代に日本一になったことや、中学生時代にベスト8を経験できたからだと思います。春日部、大好きですね」

そんな渡嘉敷選手から春日部市の小・中学生にメッセージをもらった。

「何ごとも全力でやることは大事だけど、楽しんで好きになることも大切。スポーツでも勉強でも、『楽しむこと』を大切に取組んでほしいです」